

2025年 8 月 12 日
Triple Tree Racing

Juju、テクニカルサーキット SUGO で悔し涙をのむ
～フリー走行開始早々フロア損傷に苦闘した土曜日～
～スピンから自力で復帰し完走した日曜日～

2025 年 8 月 10 日(日)に全日本スーパーフォーミュラ選手権第 8 戦東北大会決勝が宮城県のスポーツランド SUGO で開催され、HAZAMA ANDO Triple Tree Racing の Juju は、19 番手からスタートし、20 番手でチェッカーを受けました。



Rd.	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
8	スポーツランドSUGO	51	雨	24	27	19	20

※天気、気温、および路温は決勝スタート時

※レースは90分でチェッカー

Triple Tree Racing

SF 参戦 2 年目、新規チームでの挑戦 1 年目となる Juju は、前戦の富士大会で大きな手ごたえを掴みました。舞台を移した第 8 戦は、今年コースアスファルト全面改修が施された全長 3.621km、高低差に富むテクニカルな SUGO サーキット。チームは「どこまで攻めたセッティングができるか」を焦点に、9 日(土)午前のフリー走行メニューを組み立てましたが、セッション開始早々セッティングを進める上で重要となるフロアが壊れてしまったことで、90 分のセッションがほぼ意味をなさないものとなってしまいました。

同日午後の予選では、フリー走行でセットが詰め切れなかったため、ある程度の仮定のもとにマシンにアジャストを施し B グループで出走。アタックラップに入ろうというところで赤旗によりセッションは中断。残り 4 分で再度コースインしてアタックに挑み、Juju は 1 分 7 秒 671 を記録。決勝は 19 番グリッドからスタートすることになりました。

翌 10 日(日)の決勝日は、前日の暑さと青空から一転、朝から霧雨模様。9 時 30 分開始の 30 分間のフリー走行では限られた時間の中でスタート練習やセッティングの確認などを行い、決勝に向けた最終調整を実施。

午後になっても菅生上空は雨雲に覆われ、決勝レースはセーフティカー(SC)スタートに。6 周目にリスタートが切られましたが、10 周目にコースアウトしたマシンがあり、再び SC が導入。この時点で Jujuからは「タイヤが両方ともタレてきている」と無線が入ります。走り出し直後は前の車と戦えるだけのペースがあると感じられたものの、2 周程で急激にペースが落ちてしまい、Juju は防戦一方のレースを強いられていました。

15 周目のリスタート後、Juju は前後のライバルとバトルを繰り広げながら周回を重ねますが、19 周目、3 台で連なり 1 コーナーに進入した際にスピンを喫し、エンジンがストップ。「ごめん」と無線を送る Juju に、監督からは「なんとか自力でスタートできないか」と指示が飛びます。Juju は SUGO の地形にも助けられ、下り坂をうまく利用し、自力でエンジンを再始動してレース復帰に成功。

すでにタイヤに十分なグリップがないと痛感していた Juju は、スピンでタイムを失ったこともありタイヤ交換を希望。監督と何往復かのやりとりを重ねる中、コースオフによるクラッシュ車両発生で再び SC が導入され、このタイミングでピットインし、内圧を調整したタイヤに交換を行いました。

しかしタイヤ交換後も 2 周ほどで再び大幅なペースダウンに見舞われ、Juju は以降、タイヤを労わりながらの走行に専念することに。それでもミスなく周回を重ねる中、レースの残り周回数が一桁となる 39 周目に監督から「セクター 1、2 はいいが、セクター 3、4 が遅い。特にセクター 4 をもう少し上げられるよう工夫してみようか」と無線が入ります。監督からの言葉を受け止めた Juju は 40 周目にセクター 3 と 4 で合わせて約 1 秒短縮してみせ、さらに 41 周目にはそのラップでの全車を含めた全体ベストを叩き出す渾身のドライビングを披露。しかしペースを上げるとタイヤがオーバーヒートして再びペースダウンするというジレンマを繰り返すことに。

以降の Juju はさらにフラストレーションを抱えながら周回を重ね、規定により 90 分で終了したレースで 47 周を走り切り 20 番手でチェッカーを受け、路面改修後のテクニカルコース SUGO での経験値を積み上げた週末となりました。

Triple Tree Racing

◆ドライバー Juju のコメント

「今日が雨のレースになるのは予報でわかっていたので、コンディション自体は問題ではなかったと思いますが、何しろペースがなさすぎました。スタート直後は自分の前後のマシンと戦えるペースで走っていたのですが、2周もするとタイムの落ち幅が大きく、ドンと落ちてしまった症状に苦しみました。現時点で確かな原因はわかっていません。内圧が関係しているのではと思うのですが、内圧だけで、あれ程大きくペースが落ちることはないと思うので、この後、エンジニアと一緒に分析をして、原因をみつけなければいけません」

「端から見たら、バトルをしているように見える場面もあったと思いますが、全くペースがなかったのも、正直抑えるだけで精一杯でした。アクセルを踏まなければ抜かれるけど、踏んだらいつ車が飛んでいくかわからない、という感じの中での厳しいレースでした。結果的にスピンして、エンジンがとまってしまいましたが、下り坂だったこともあり、自力でエンジン始動させられて、レースに復帰できました」

「タイヤ交換後、SCで走った周回も多かったのですが、リスタート直後の1周はタイムも出せていました。でもその後またドンと落ちてしまい、タイヤを変えても症状は変わりませんでした。次の富士に向けて、原因を特定することが急務です」

◆監督 野田英樹 のコメント

「先月の富士から良い流れになった兆しがあり、良い雰囲気です。SUGO戦を迎えられたと思いますが、チームのケアレスミスもありフリー走行序盤でフロアに大きなダメージを負ってしまいました。今大会についてはそれが全てかな、と思います。そのために、フリー走行ではセットを詰めることもできない、データを取ることもできない、ペースを上げることもできない、と何もできない状態の中で、予選に向けて想像ベースでセッティングするしかなく、予選の一発のセットを詰めることはできませんでした。結局レースセットについてもよろしくなく、スタート直後にペースがあっても、すぐにタイヤがダメになってしまうという状態で、朝のフリー走行から、そのあたりを見越したセットにすることもできなかったわけです」

「また、タイヤ交換についても、練習も本番も、まだまだタイムが詰められることがみてとれます。富士で前進したと、良い雰囲気になりましたが、今回のSUGOではちょっと後退してしまった感があります。同じことを繰り返しては仕方ありません。笑顔で仕事ができることは大切ですが、結果を出せないただの仲良しクラブになってしまうので、ひとりひとりに意識改革を求めます。それができてその先に、チームとして本当の笑顔を手にすることができるはずです」

以上

Triple Tree Racing